

第60回

全国学童保育研究集会in福岡

全国学童保育研究集会は、保護者、指導員、運営者や自治体職員、研究者の方々などが一堂に会し、1年に1回、2日間にわたって交流し、共に学びあう研究集会です。
2日間、存分に語りあい、学びあいましょう。ぜひ、ご参加ください！

全体会

2025年10月25日(土) 13:00～17:00 (12:00 受付開始)

会場：福岡国際センター（福岡県福岡市）& オンライン配信【LIVE】

開会行事／特別報告／基調報告／

全体会のみ、後日のオンデマンド配信あり

『日本の学童ほいく』普及拡大アピール ほか

記念講演 「子どもたちが自ら社会をつくるには
——共に生きる大人が大切にしたいこと」

松田洋介（大東文化大学）

〈講師プロフィール〉神奈川県横浜市生まれ。小学校時代は学童保育で過ごす。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。滋賀県立大学、金沢大学での勤務を経て、2019年4月より大東文化大学文学部教育学科教授。専門は教育社会学。生活指導や集団づくりにも強い関心を持つ。2023年の全国学童保育指導員学校・四国会場で、講座「子どもとメディア」の講師を担当。2023年、2024年の全国研では、分科会「今日の子どもの問題を考える」の講師を担当。月刊『日本の学童ほいく』2024年10月号から2025年3月号まで『講座 子ども・若者たちの『いま』——共に生きる大人が大切にしたいこと』連載。2025年より『学童保育研究』（一般社団法人日本学童保育士協会＝編集・発行）編集長を担う。



交流会

全体会閉会后（福岡国際センター）

会場の分科会

分科会

2025年10月26日(日)

9:30～16:00 8:30 受付開始

対面のみで実施（オンライン配信なし）

会場：福岡大学

福岡大学附属若葉高等学校
（福岡県福岡市）



オンラインの分科会

2025年11月9日(日)

10:00～16:00

9:30 受付開始

オンラインのみで実施

- 主催 全国学童保育連絡協議会
福岡県学童保育連絡協議会
- 後援 福岡県、福岡市教育委員会、
こども家庭庁 ほか

第60回全国学童保育研究集会に関する情報は、全国研特設サイトにて、随時お知らせします！

<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/zenkokuken/d60/>



第60回全国学童保育研究集会のご案内

● 日程と会場

2025 年 10 月 25 日(土) 全体会 福岡国際センター(福岡県福岡市) & オンライン(LIVE) 配信
10 月 26 日(日) 会場の分科会 福岡大学・福岡大学附属若葉高等学校(福岡県福岡市)
11 月 9 日(日) オンラインの分科会
*全体会のみ、後日オンデマンド配信あり。配信期間は 2025 年 11 月 8 日～24 日(予定)。

● 参 加 費 4,000 円(消費税課税対象外)

1 日のみの参加・両日参加、会場参加・オンライン参加^{*}、いずれでも同額です。

*オンライン参加には、全体会のオンデマンド配信のみの視聴も含まれます。また、1 台のパソコンなどから複数人で参加する場合にも、参加者全員分の申し込みが必要です(1 名につき 4,000 円)。

● 弁 当 代 1,000 円(10 月 26 日のみ)

当日販売はありません。お弁当が必要な方は参加申し込み時に必ずお申し込みください。

● 保 育 4 歳以上(保険料・おやつ代は当日、会場にて集金)

希望される方は、参加申し込み時に必ずお申し込みください。利用日、氏名、年齢、その他必要事項等は別途、保育申し込みフォームでの申し込みが必要です。くわしくは、下記【集会参加申込専用 WEB ページ】内にある、「保育の申し込み」をごらんください。

- 参加申し込み *本研究集会の参加申込受付業務は、集件事務局からの委託を受け、【(株) JTB 福岡支店】が行います。参加方法にかかわらず、事前の参加申し込みが必要です。「WEB 申し込み」または「FAX 申し込み」のいずれかの方法でお申し込みください。くわしくは、下記【集会参加申込専用 WEB ページ】内にある、「参加申し込み方法」をごらんください(「FAX 申込書」もこちらからダウンロードできます)。

【集会参加申込専用 WEB ページ】(6 月末開設)

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/zenkokuken/d60/entry>

二次元コードよりアクセスされる方はこちら▶



● 参加費のお支払いについて

WEB 申し込み: カード決済・コンビニ決済・銀行振込のいずれかを選び、期日までにお支払いください。

FAX 申し込み: 銀行振込のみ。FAX 送信日から 1 週間以内を目途に、「FAX 申込書」に記入されたメールアドレスあてに、登録内容確認と振込口座情報をお送りします。振込期日までにお支払いください。

● 参加申し込み締切 参加方法によって、参加申し込み締切日が異なります。

会場参加の場合: **2025 年 10 月 8 日(水)** オンライン参加のみの場合: **2025 年 9 月 25 日(木)**

*申込締切日(参加方法により異なる)は、WEB 申し込み・FAX 申し込み共通です。

*申し込み内容の変更は 10 月 8 日(水)までお受けできます。

*キャンセルは、10 月 8 日(水)までにいただいたお申し出については振込等にかかる手数料実費を除き、全額返金いたします。10 月 9 日(木)以降は返金できません。

● お問い合わせ先

集会全般に関わってのお問い合わせ

【集件事務局】全国学童保育連絡協議会

TEL : 03-3813-0477

(土日祝日休業/10 時～17 時)

E-mail d60zkk@xvg.biglobe.ne.jp

参加登録に関するお問い合わせ

【第 60 回全国学童保育研究集会 参加登録受付事務局】

JTB ビジネストラנסフォーム(大浦・川原・清水)

〒810-0072 福岡市中央区長浜 1-1-35 新 KBC ビル 5 階

TEL : 092-751-2102 FAX : 092-751-4098

E-mail 60gakudo@jbx.jtb.jp

受付時間: 10 時～17 時(土日祝日休業)

〈個人情報の取扱について〉お申し込みの際にご登録いただきました参加者様の個人情報(氏名・住所・電話番号等)につきましては、(株) JTB 福岡支店が研究集会の運営、お客様との連絡等に係る目的で利用します。また、全国学童保育連絡協議会と情報を共有します。個人情報につきましては、(株) JTB 福岡支店の「個人情報保護方針」に基づき取扱い、保護に努めます。

【(株) JTB 福岡支店】個人情報保護方針、個人情報保護の対応について <https://www.jtbcorp.jp/jp/privacy/jtb/>

* (株) JTB 福岡支店と共有した個人情報は、本研究集会への参加申込受付業務と問い合わせ、本研究集会運営に必要な範囲、また参加申込者ご本人からの本研究集会への参加申込手続きを効率的に実施するために必要な範囲で、全国学童保育連絡協議会の管理責任のもと、提供していただいた個人情報を各都道府県連絡協議会(くわしくは、弊社ホームページをごらんください)と共同利用いたします。全国学童保育連絡協議会の個人情報保護方針に基づき、ご本人の許可なく第三者への提供は行いません。

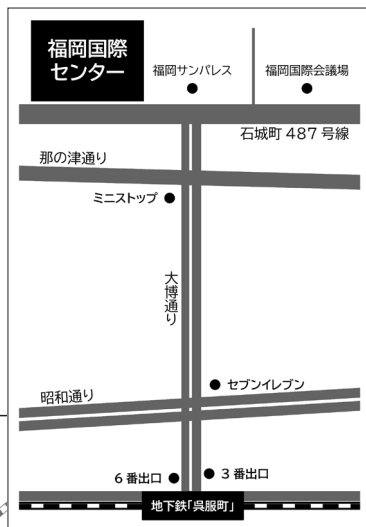
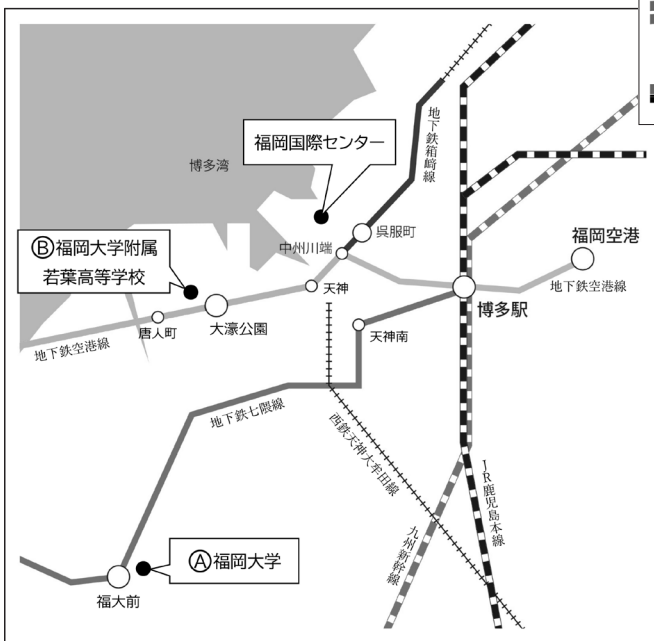
会場への交通案内

※全体会場、分科会会場ともに駐車場・駐輪場はありません。

〈10月25日・全体会場〉

◆福岡国際センター（福岡市博多区築港本町 2-2）

- ◎最寄り駅：地下鉄箱崎線「呉服町」駅より徒歩 12 分
- 新幹線の場合：「博多」駅—地下鉄空港線「中洲川端」駅—地下鉄箱崎線「呉服町」駅
- 飛行機の場合：「福岡空港」—地下鉄空港線「中洲川端」駅—地下鉄箱崎線「呉服町」駅
- バスの場合：JR「博多」駅・博多口より、
 - ・「博多駅西日本シティ銀行前」（F のりば 99 番）—約 11 分—「国際センターサンパレス前」下車、徒歩すぐ
 - ・「博多駅西日本シティ銀行前」（F のりば 88 番・BRT）—約 11 分—「国際会議場サンパレス前」下車、徒歩すぐ



〈10月26日・分科会会場〉

① 福岡大学

（福岡市城南区七隈八丁目 19-1）

- ◎最寄り駅：地下鉄七隈線「福大前」駅下車、1 番出口すぐ
- 新幹線の場合：「博多」駅—地下鉄七隈線「福大前」駅
- 飛行機の場合：「福岡空港」—地下鉄空港線「博多」駅—地下鉄七隈線「福大前」駅

② 福岡大学附属若葉高等学校

（福岡市中央区荒戸 3 丁目 4-62）

- ◎最寄り駅：地下鉄空港線「大濠公園」駅下車、1 番出口より徒歩 12 分
- 新幹線の場合：「博多」駅—地下鉄空港線「大濠公園」駅
- 飛行機の場合：「福岡空港」—地下鉄空港線「大濠公園」駅



学童保育では、保護者・子ども・指導員が共に話しあい、日々の生活をつくっています。全国連協ではそれを「生活づくり」と呼び、三者が主体者として「共につくる学童保育」を大切にしてきました。全国研も、保護者と指導員が共に参加し、交流するなかでお互いの思いや願いに気づいていく場です。それぞれの分科会で学び、交流しましょう。

- ※〈会場の分科会〉〈オンラインの分科会〉、1日を通して学習・交流します。いずれも事前の参加申し込みが必要です。
- ※〈会場の分科会〉と〈オンラインの分科会〉では、開催日・開催時間、参加方法が異なります。
- ※〈会場の分科会〉と〈オンラインの分科会〉、両方に参加することはできません。〈会場の分科会〉〈オンラインの分科会〉のなかから、希望する分科会をひとつ選んでご参加ください。
- ※定員を設ける分科会があります。定員のある分科会（定員数）は【集会参加申込専用 WEB ページ】にてご案内します。定員のある分科会は定員に達し次第、受け付けを締め切ります。早めにお申し込みください。

10月26日(日) 会場の分科会・福岡大学、福岡大学附属若葉高等学校／9：30～16：00

〈会場の分科会〉に参加する方は以下から、希望する分科会をひとつ選んでご参加ください。1日を通して学習・交流します。

分科会		学習・交流のねらい
●基礎講座（講義）		
1	② 保護者と指導員で学童保育をもっとよく	「子どもが安心して生活できる学童保育にしたい」と願い、学童保育の生活内容をつくり、運営や条件整備に取り組むにあたって、保護者と指導員がどのようにかわるか、そして保護者会（父母会）と指導員の役割を学びます。
	④ 学童保育の生活——大切にしたいこと	学童保育で子どもにどのような生活を保障するか、そして保護者が安心して働くために、学童保育で大切にしたいことはなにかを学びます。
●子ども理解と学童保育の生活づくり（実践の交流）一人ひとりの子どもと指導員との関係から生まれる安心感をもとにした、継続的で安定した毎日の生活をつくるために、一人ひとりの子どもをどのように理解するか、子ども同士の関係をつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。		
2	① 子ども理解の視点と安心できる関係づくり [A・B]	一人ひとりの子どもと指導員との関係から生まれる安心感をもとにした、継続的で安定した毎日の生活をつくるために、一人ひとりの子どもをどのように理解するか、子ども同士の関係をつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。
	② 学童保育の生活の見通しと流れ	継続的で安定した毎日の生活をつくるために、子どもの状況をふまえ、平日の放課後・土曜日・長期の学校休業日など、それぞれの生活の状況に合わせての見通しと流れをつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。
	③ 学童保育の生活とあそび	学童保育の生活のなかで、子どもはあそびを楽しみ、いろいろな発見をしたり、学童保育のなかの人間関係などを育み、成長していきます。日々の生活のなかで子ども自身が主体的にあそぶことの大切さ、また指導員があそびに関わる意味や配慮すべき点を学びあいます。
	④ 子どもたちの生活を伝え、保護者とともに育てる	子どもの生活の様子や指導員のかかわりを保護者に伝えること、保護者の生活や思いを受けとめ、指導員と保護者がともに子どもを育てることの大切さを学びあいます。
	⑤ 高学年にとっての学童保育	思春期を迎える高学年の子どもの学校や家庭、地域での過ごし方、子どもの思い・願いを理解しながら、1年生から6年生の子どもが過ごす場である学童保育で大切にしたいことを学びあいます。
	⑥ 学童保育の生活づくりと食	学童保育に通う子どもにとって、おやつはとても楽しい時間です。「手づくりおやつ」ができる環境になくても、子どもがおやつづくりの計画に参加することができる視点や、食は文化にかかわることも含めて、「学童保育の生活における食とは何か」「子どもたちの育ちにどのような影響を持つのか」について学びあいます。
	⑦ 障害のある子どもにとっての学童保育	障害のある子どもが入所している学童保育での生活づくりの実践を交流し、指導員の働きかけで大切にしたいことを学びあいます。
	⑧ 学童保育の「安全」を考える	学童保育の生活において、子どもの命と安全を守るためには、子ども自らが身を守る力（感覚・判断・身体能力）を付けられるように、適切な保護や援助を行うことが必要です。それぞれの実践を交流し、子ども・指導員・保護者がともにつくりあげる学童保育の「安全」について学びあいます。
	⑨ 子ども理解と心のケア 助言者・池田美樹（桜美林大学）	多発する災害、コロナ禍で、心に痛手を受けた子どもに見られる行動や、その子どもやその周囲の大人（保護者や指導員）に対して心がけること、支援者たちをどのように支えていくかについて考えます。助言者を迎え、実践を交流し、学びあいます。

分科会		学習・交流のねらい
● 運動を交流する分科会		
3	① つながる“わ” 保護者会・父母会の役割と活動	学童保育を充実・発展させる保護者会・父母会の活動を交流し、保護者会・父母会の役割と大切さを確かめます。
	② 市区町村の連絡協議会づくりと活性化	連絡協議会の活動を持続・発展させるための工夫、保護者・指導員が「あってよかった」と実感した経験を交流し、市区町村・都道府県の連絡協議会の役割と大切さを確かめます。
6	運営主体の変更・多様化する学童保育 ——実態と改善の課題	一つの市町村のなかでも公営・保護者会運営・法人運営等、さまざまな運営主体が混在する自治体があるなど、運営主体は多様化しています。さらに、運営主体の変更や、既存の法人に運営を譲渡するなどの動きも出ています。どういう運営主体であれ、学童保育の当事者の願いを大切に、保育内容の標準化を図り、行政の公的責任がどうあるべきかを確かめることで、学童保育施策の実態と改善の課題を考えます。
7	学童保育の公的責任を考える ——委託・指定管理の問題点 助言者・木村雅英（大阪自治体問題研究所）	公設学童保育では、「人材確保・運営の効率化・サービスの拡充」などの理由で民間委託・指定管理者の運営が広がっています。民設の補助事業の学童保育でも、新たな民間事業者による運営が増えています。そのなかでも、学童保育の公共性・公務性を重視し、学童保育の当事者の願いや行政の公的責任がどうあるべきかを確かめることで、学童保育施策の実態と改善の課題を考えます。
8	子どもの放課後・地域生活を考える 助言者・阿比留久美（早稲田大学）	子どもにとって放課後・地域生活とはどのような時間なのかをまず共有します。この時間を支える大人（保護者や指導員、地域の方々）が大切にしたい視点とはなにかを確かめ、学童保育でできること・地域との連携で可能になることなど、子どもが主体的に生活できる環境をどうつくりあげていけるかを考えます。
10	子ども集団の規模を考える ——「40人以下」の実現を [A]	子ども集団の規模の上限を超えて、大規模化した学童保育は、子どもたちに深刻な影響を与えます。国の基準や「放課後児童クラブ運営指針」で示された「おおむね40人以下」を実現するための、学童保育の新設、分割の必要性とあり方を考えます。
11	学童保育の制度と施策の拡充の課題	2023年にこども家庭庁が創設され、子ども政策に注目が集まるなかで、学童保育の生活全般に関わる保育の質の底上げが強く求められます。「放課後児童クラブ運営指針」の改定は「子どもの権利」や安全対策を意識した内容になっていますが、「放課後児童対策パッケージ2025」の内容にも表れているように、国や自治体が示す方策のなかには、運営指針の内容が十分に担保されない・浸透していないものが含まれています。保育所と同等に制度を確立させていくことが必要です。交流から学童保育の制度・施策の現状と課題を明らかにし、行政の公的責任を求める運動の課題を確かめます。
12	指導員の専任・常勤・複数体制、 労働条件 [A]	子どもたちに「生活の場」を保障するためには、専門的な知識や技能を身につけた専任・常勤の指導員が複数配置されることが必要です。指導員の専任・常勤・複数体制の意義と実現に向けた取り組みの必要性を確かめます。
13	指導員の職場づくりと指導員組織	指導員の仕事に必要とされる「連携・協力」「学びあい」の実態を交流して、「職場づくり」の課題、指導員同士が学び、支えあうための指導員組織の必要性やあり方について確かめます。
14	「運営」の視点から学童保育を考える	施設を確保し、指導員を雇用し、保護者から集めた保育料と公的な補助金を資金に、児童福祉法、国の基準、国の基準にもとづいて市町村が定めた基準条例の枠組みのなかで「運営」することを考えます。いずれの運営主体でも、当事者である子ども・保護者・指導員の願いを大切に、学童保育の公共性・公務性を重視し、自治体の関与・公的責任を求めながら、保育内容や保護者とのかわりを含めた、「運営」に取り組んでいく必要があります。補助金の仕組みや施設の運営管理・事業内容の向上について「運営」の視点から学び、交流します。

10月26日（日）会場の分科会

分科会		学習・交流のねらい
● 講義・交流の分科会		
15	②発達障害のある子どもの理解と支援 講師・菅原航平（福岡県立大学）	発達障害のある子どもの理解を深め、学童保育での生活、子ども同士のかかわり、指導員とのかかわりで大切にしたいこと、保育するうえで求められることを学びます。
	③地域の専門機関・専門職等との連携 講師・佐々木将芳（静岡県立大学短期大学部）	障害のある子どもとの生活づくりに必要な関係機関はどのようなものがあるのか、また関係機関との連携のあり方について学びます。
16	高学年の子どもの生活と理解 講師・宮川真幸（高知・小学校教育論）	高学年の子どもの心と身体の特徴、生活、願い・思いを確かめ、高学年の子どもたちに保障したい放課後の生活や、学童保育や家庭で大切にしたいことを学びます。
17	子どもの権利を学ぶ 講師・齋藤史夫（元東京家政学院大学）	子どもが一人の人間として、命を守られ、成長する権利、最善の利益と意見を尊重することなどが「子どもの権利条約」でうたわれています。子ども一人ひとりの声を聴き、子ども自身の判断や考えを尊重するために、学童保育や家庭で大切にしたい子どもの権利を学びます。
18	今日の子どもの問題を考える 講師・松田洋介（大東文化大学）	SNSをはじめとしたインターネットの利用や、いじめ、不登校、引きこもり、学級崩壊、少年犯罪など、今日の子どものめぐる状況を明らかにし、子ども理解を深めることの大切さ、子育てや教育をとりまく課題を学びます。
19	学童保育と学校 ——保護者と指導員と教師のかかわり 講師・谷口誠二（福岡・元小学校教育論）	今日の学校・教師・子どもをめぐる実態や動向、子育ての願いや子どもの生活を保護者・指導員・教師が伝えあうことの大切さを、それぞれの実践から学びます。
20	子どもの気持ちに気づく ——家庭で、学童保育で 講師・本田由紀（東京大学）	働きながら子育てをしている保護者の状況や思い、願いもふまえ、一人ひとりの子どもの思いや気持ちに耳をかたむけ、気づくこと、理解を深めること、信頼関係を築いていくことの大切さを学びます。
21	性について考える 講師・宮地歌織（高知大学）	からだと心が大きく変化・成長する児童期に、からだと心の変化・成長についての基礎知識をはじめ、生活をともにする大人・保護者が学んでおきたいこと、学童保育の生活のなかで配慮したいこと、大切にしたいことを学びます。
23	子どもとあそび [A] 講師・代田盛一郎（大阪健康福祉短期大学）	あそびを中心とした幼児期の生活から、学童期は学びの要素が増えてきます。日々の生活やあそびのなかに、仕事や学びにつながる要素があります。そして、人やモノ、社会とかかわりあい、成長発達していきます。子どもにとってのあそび・仕事・学びの大切さと、大人のかかわりを考えあいます。
26	働きながらの子育てと家族・家庭 講師・杉田真衣（東京都立大学）	働きながら子育てをしている保護者の状況、仕事・職場の実態をふまえ、家族・家庭の役割、働きながら子育てする環境を築くうえで大切なことについて学びます。
27	困難を抱える家庭を支える学童保育 講師・重永侑紀（NPO 法人CAP センター）	「子どもの貧困」「児童虐待」についての実態と課題を学び、どの子どもにとっても安心して過ごせる場所であり、困難を抱える子どもや保護者を支える学童保育の役割について考えます。
28	社会保障・児童福祉、自治体をめぐる政策動向と課題 講師・石原剛志（静岡大学）	社会保障の現状と課題、公的保育制度の動向、権利としての福祉、今日の自治体の政策動向と国や自治体の役割と責務、子育てと仕事を両立することの保障を確立するための運動の課題を学びます。
● 特設分科会		
特設(B)	学童保育の防災～災害への備えを考える 助言者・山田心健 (公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)	突然の災害。子ども・指導員・保護者の命と安全を守れるかどうかは、日ごろの備えにかかっています。防災のためには学童保育ごとに安全計画をふりかえり、検証を重ねてつくり直し、共有しておくことが必要です。緊急時に対応するためにも日頃の生活づくり、施設の運営管理、施策の改善の3つの側面から交流します。
特設(C)	【開催地企画】 しゃべり場 in 全国研～今日はたくさん話して、全国の学童保育のことを知ろう！	指導員も保護者も子どものもことで「こんなときどうしたらいいだろうか？」「ほかの学童ではどうしているのだろうか？」と悩むこともありますよね。この分科会では全国の仲間と交流して、明日からの保育や子育ての活力となり、子どもも大人も笑顔になることと思います！

〈オンラインの分科会〉に参加する方は以下から、希望する分科会をひとつ選んでご参加ください。1日を通して学習・交流します。

分科会		学習・交流のねらい
● 基礎講座（講義）		
1	① 学童保育ってなあに？ ——今日の子育てと学童保育の役割	子育て環境の現状、保護者の仕事・職場や就労の実態をふまえて、学童保育の役割と保護者と指導員が共に子どもを育てる学童保育のあり方を学びます。
	③ 学童保育指導員の仕事ってなあに？	指導員の仕事とはなにかを確かめ、仕事に必要な打ち合わせや記録などの日々の実務やその意味、そして学童保育をよりよくしていくうえで指導員に必要なこと・大切にしたいことを学びます。
● 子ども理解と学童保育の生活づくり（実践の交流）一人ひとりの子どもと指導員との関係から生まれる安心感をもとにした、継続的で安定した毎日の生活をつくるために、一人ひとりの子どもをどのように理解するか、子ども同士の関係をつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。		
2	① 子ども理解の視点と 安心できる関係づくり [C]	一人ひとりの子どもと指導員との関係から生まれる安心感をもとにした、継続的で安定した毎日の生活をつくるために、一人ひとりの子どもをどのように理解するか、子ども同士の関係をつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。
● 運動を交流する分科会		
4	公立公営の学童保育——意義と役割	公立公営の学童保育の実態と課題、保護者と指導員が生活内容と施策をどう充実させていくのかを交流し、公立公営の学童保育の意義・役割を確かめます。
5	保護者が運営する学童保育 ——役割と改善の課題	保護者が運営する学童保育では、指導員や地域と連携し、さまざまな工夫をしながら役割を果たしていますが、保護者の負担軽減が大きな課題になっています。保護者が担っている役割と行政の公的責任のあり方について交流します。また、安定運営や負担軽減の名目で合同運営や法人格の取得が検討されていることについても、取り上げます。
9	よりよい施設を子どもたちに ——毎日の生活の場	施設・設備の実態と課題について、国の基準や「放課後児童クラブ運営指針」をふまえて、改善運動や工夫を交流し、学童期の子どもの「生活の場」にふさわしい学童保育の施設・設備のあり方を確かめます。
10	子ども集団の規模を考える ——「40人以下」の実現を [B]	子ども集団の規模の上限を超えて、大規模化した学童保育は、子どもたちに深刻な影響を与えます。国の基準や「放課後児童クラブ運営指針」で示された「おおむね40人以下」を実現するための、学童保育の新設、分割の必要性とあり方を考えます。
12	指導員の専任・常勤・複数体制、 労働条件 [B]	子どもたちに「生活の場」を保障するためには、専門的な知識や技能を身につけた専任・常勤の指導員が複数配置されることが必要です。指導員の専任・常勤・複数体制の意義と実現に向けた取り組みの必要性を確かめます。
● 講義・交流の分科会		
15	① 障害のある子どもの理解と受け入れ 講師・丸山啓史（京都教育大学）	障害のある子どもの権利を保障し、保護者の思いを受けとめ、学童保育で生活するにあたって大切にしたい視点や必要な条件整備、2016年施行の「障害者差別解消法」について学びます。
22	子どもの発達と学力 講師・神代健彦（京都教育大学）	子どもの成長・発達についての知識をもとに、学力とはなにか、学力の土台になるもの、子どもの発達を保障するために家庭・学童保育・学校で大切にしたいことを学びます。
23	子どもとあそび [B] 講師・代田盛一郎（大阪健康福祉短期大学）	あそびを中心とした幼児期の生活から、学童期は学びの要素が増えてきます。日々の生活やあそびのなかに、仕事や学びにつながる要素があります。そして、人やモノ、社会とかかわりあい、成長発達していきます。子どもにとってのあそび・仕事・学びの大切さと、大人のかかわりを考えあいます。
24	子どものからだと生活 講師・鎌田克信（東北福祉大学）	生活様式・社会状況の変化とともに、さまざまな問題が生じています。今日の子どものからだの特徴、成長期にある子どもの健康について考えるうえで家庭・学童保育・学校で大切にしたいことを学びます。
25	学童期の子どもと食 講師・高橋比呂映（仙台青葉学院短期大学）	子どもが食事づくりに参加することの視点、食は文化にかかわる基本であることも含めて、「学童期の子どもにとって食とは何か」「子どもたちの育ちにどのような影響を持つのか」について学びます。
● 特設分科会		
特設 (A)	学童保育の資格と 指導員の力量形成について考える	全国連協は、会の発足以来、指導員は専門的な知識や技能を備えることが必要な職であるとして、1999年に指導員自らの言葉でテキストを、2003年に研修科目（試案）をまとめました。「放課後児童支援員」の資格創設以降、いずれも大幅に改訂を行っています。また、高等教育機関における養成課程の設置についても提言しました。現在の認定資格研修のあり方や改善点を交流し、資格や指導員の力量形成のあり方について学び、交流します。

会場参加にあたって

- 会場までの交通・宿泊は、各自でご手配ください。
- 全体会会場、分科会会場ともに、駐車場・駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。
- 弁当、保育を希望される方は必ず、事前にお申し込みください。

会場参加の方へのお願い

レポート 資料	・分科会に参加者が自主的にレポートや資料を用意されることは大歓迎です。ただし、印刷は当日、会場ではできませんので、必ずご自身で事前に印刷して持ち込んでください（印刷枚数は10月20日〔月〕までに全国学童保育連絡協議会まで問い合わせてください）。 ・分科会会場では、まず世話人にレポート・資料の持ち込みの旨を伝え、世話人を通して参加者に配布してもらってください。なお、1日目（土）に世話人に渡したいので、できましたら1日目に全体会本部に2部お持ちください。
販 売	・販売は、実践や運動の記録に限ります。販売を希望される方は、それぞれの都道府県連絡協議会または全国学童保育連絡協議会事務局に、10月10日（金）までに申し込んでください。 ・販売は、用意してある販売場所に限ってお願いいたします。販売物は、全国学童保育連絡協議会に1部寄贈することをお願いいたします。
チラシ配布・署名・募金・カンパニアなど	会場内でのこれらの活動は集会運営に支障となりますので、認めていません。全国からの参加者にとって研究・学習の有意義な場となるよう集会を運営しています。ご理解とご協力をお願いします。

オンライン参加にあたって

- web 会議サービス『Zoom』を使用します。事前にパソコンやタブレット、スマートフォン等の当日使用する端末機器に、『Zoom』アプリをインストールしておいてください。インストール後は、動作確認を行うとともに、受信する場所のインターネット環境をご確認ください。
*インストールやアプリの使用は無料ですが、通信料が発生します。こちらは各自でご負担ください。
- 分科会のグループ討議などで発言を求められる場合があります。パソコン等にマイクが内蔵されていない場合は、別途、マイクをご用意ください。
- 開催日までに、参加案内と討議資料、分科会資料を郵送します。
- 11月8日から配信予定の全体会オンデマンド配信の接続情報は討議資料に記載します。

オンライン参加の方へのお願い

レポート・資料	分科会に参加者が自主的にレポートや資料を用意すること、画面共有することはできません。
チラシ配布・署名・募金・カンパニアなど	これらの活動を行うことは集会運営に支障となりますので、認めていません。全国からの参加者にとって研究・学習の有意義な場となるよう集会を運営しています。ご理解とご協力をお願いします。

分科会記録集 1,000 円（送料込み）

- 研究集会終了後、分科会記録集を発行します（2026年3月末までにお届け予定）。購入を希望される方は、参加申し込み時にお申し込みください。

働きの
学童ほい・く

全国学童保育連絡協議会／編集・発行
月刊／定価 391 円（本体 355 円）

働きながらの子育てと、学童保育の実践と運動に役立つ記事がいっぱい！

